

インターンシップ参加によるコンピテンシーの伸長調査

－建築系学生の場合－

Survey of Competency Growth through Internship Participation

－ Case of Architectural Students －

○五十嵐 賢次^{※1}

Kenji IGARASHI

キーワード：インターンシップ、PROG テスト、コンピテンシー

Keywords: Internship, PROG test, Competency

1. はじめに

新潟工科大学では、3 年次の夏期休業中に原則 2 週間の職業実習（インターンシップ）を正課目としてカリキュラムに取り入れている。これは選択科目であるが、これから就職活動を控える学生にとっては貴重な経験である。それとは別に 3 年前より、1・2 年生を対象に夏期休業中に“地域産業探究”なる正課外の活動を始めた。県内各市と提携して、2 日程度の短期の就業体験を行うもので、毎年 30 人程度は参加している。職業実習では、後期授業が始まって直ぐに報告会を行っているが、1・2 年次に“地域産業探究”参加した学生の発表がすこぶる出来が良い。

これらの活動に参加することによって、学生には社会性が身に付くと考えられるが、それを検証するために筆者が所属する建築・都市環境学系の学生を対象に、PROG テスト¹⁾の特にコンピテンシーについて比較するものである。

2. 方法

建築・都市環境学系の現 4 年生は 47 名であるが、1 年入学時と 3 年後期の両方で PROG テストを受けた学生は 43 名である。この中には職業実習と地域産業探究共に参加していない“不参加”，3 年次職業実習のみ参加した“職業のみ”，職業実習と地域産業探究に参加した“職業＋地域”の主に 3 グループに分けられる。他に地域産業探究のみ参加した学生もいるが、サンプル数が少ないので対象から外すこととした。これらの内訳は図 1 に示す通りである。

PROG テストのコンピテンシーは 3 分類 9 項目からなる。具体的には“対人基礎力”として親和力・協働力・統率力，“対自己基礎力”として感情制御力・自信創出力・行動持続力，“対課題基礎力”として課題発見力・計画立案力・実践力である。表 1 にこれらの

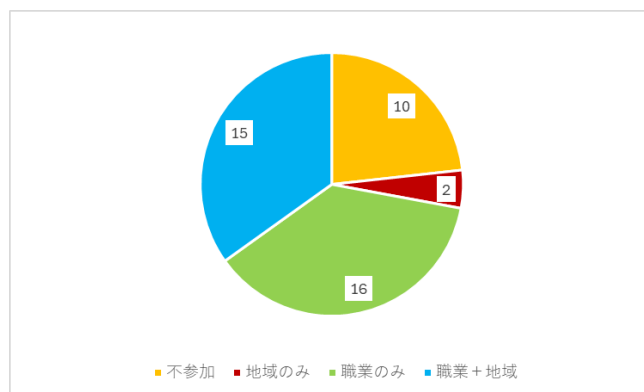


図 1 各グループの人数割合

各グループの結果を示す。なおこれら数値は 7 段階評価で各グループの平均値を示し、右端には 9 項目の平均値を示した。

3. 結果および考察

3 年生時点での各項目の平均値は、全体で 3.33，不参加は 2.98，職業のみは 3.01，職業＋地域は 3.70 であった。在学中の経験は人それぞれではあるが不参加と職業のみではそれ程大差はない。地域産業探究に参加した学生の数値が極めて高く、親和力・協働力・自信創出力・課題発見力が 4.0 以上を示している。

また、1 年生時点の結果は全体で 3.09，不参加は 2.88，職業のみは 2.70，職業＋地域は 3.41 であった。大学入学直後なので個人の資質や高校時代の経験値が反映されていると想定できるが、職業のみより不参加グループが高い数値を示した。また職業＋地域グループの数値がかなり大きく、やはり親和力・協働力といった対人基礎力で 4.0 以上を示しており、部活動等に積極的に参加していたのではと窺える。

各グループのコンピテンシーで、1 年次から 3 年次の 9 項目の伸長状況を図 2～4 に示す。この数値は 3 年次と 1 年次との差である。各項目の平均として、全体は＋0.24，不参加は＋0.10，職業のみは＋0.31，職業＋

^{※1} 新潟工科大学工学部工学科

表1 コンピテンシー調査結果

		親和力	協働力	統率力	感情 制御力	自信 創出力	行動 持続力	課題 発見力	計画 立案力	実践力	平均
1年次	全体	3.42	3.56	2.58	2.91	3.02	3.21	2.95	2.95	3.26	3.09
	不参加	2.50	2.90	2.60	2.50	2.20	3.40	3.20	3.20	3.40	2.88
	職業のみ	2.88	2.94	2.13	2.75	2.63	2.50	2.63	2.69	3.19	2.70
	職業+地域	4.20	4.20	2.60	2.93	3.67	3.53	3.13	3.00	3.40	3.41
3年次	全体	3.63	3.70	2.67	3.09	3.44	3.02	3.72	3.00	3.72	3.33
	不参加	2.50	2.80	2.50	3.00	2.50	2.70	3.50	3.70	3.60	2.98
	職業のみ	3.06	3.06	2.19	3.13	3.13	2.88	3.06	2.81	3.81	3.01
	職業+地域	4.67	4.67	3.00	2.87	4.13	3.13	4.27	2.80	3.73	3.70

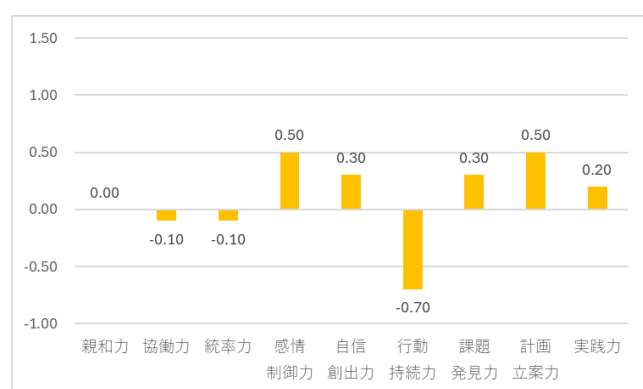


図2 不参加グループの伸長



図3 職業のみグループの伸長

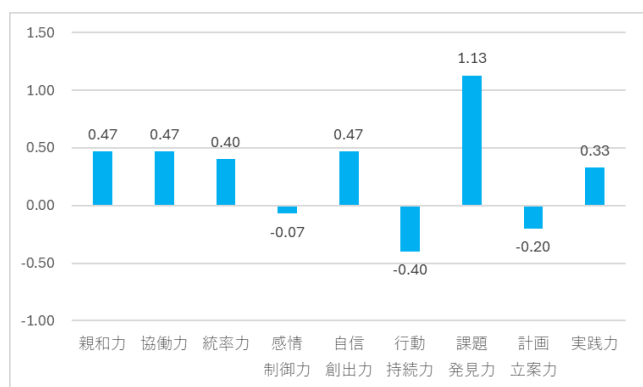


図4 職業+地域グループの伸長

地域は+0.29 であった。何れのグループもプラス側に伸長しており、大学生活でそれなりの社会性が身に付いたと読み取れる。

不参加のグループは当然ながら+1.56 を筆頭に伸長する学生も存在したが、-1.0 以上落ち込んだ学生が2人おり、10人の平均としては+0.10 であった。項目別では行動持続力の落ち込みが大きい。

職業のみのグループは、コンピテンシーの9項目が全てプラス側に伸長しており、素晴らしい成果を見せた。落ち込みの大きい-0.90 の学生も存在したが、ほかの学生が軒並みプラス側に大きく、最大+1.76 の学生がいた。実践力を筆頭に16人の平均では+0.31 と職業実習が有効に働いたと考えられる。

職業+地域のグループも-1.00 や-0.80 の学生もいるが、+1.0 以上伸長した4名が存在して15名の平均は+0.29 と職業のみと同等である。このグループは1年次で既に高いコンピテンシーを示したが、更に上積みされ、特に課題発見力には+1.13 と素晴らしい数値を示した。

4. おわりに

今回、建築系の学生を対象に職業実習参加によるグループ分けて、コンピテンシーの伸長状況を調べた結果は以下の通りである。

- 1) 不参加学生の伸長は+0.10 程度であった。
- 2) 3年次職業実習に参加した学生の伸長は+0.30 程度であった。
- 3) 1・2年次より短期の就業体験をしている学生は元々コンピテンシーが高く、職業実習参加で更に上積みされた。

注および参考文献

- 1) 「PROG 白書 2021 大学教育とキャリアの繋がりを解明」、リアセックキャリア総合研究所